

「思い出」

「ミーナの行進」小川 洋子/著



中央公論新社

病弱な従妹のミーナと過ごした
かけがえのない一年間。
おとぎ話に出てくるような洋館での日々は、
今も心の中で宝石のように美しく輝いている…。
ノスタルジーという言葉がぴったりの一冊です。

「アヴェ・マリアのヴァイオリン」香川 宜子/著



KADOKAWA

徳島に住む14才のあすかは、医者か
ヴァイオリニストか進路に迷っていた。
ある日偶然出会ったヴァイオリンは
アウシュビッツ収容所を生き延びた
同い年のユダヤ人の少女の愛用品だった。
時と国を超え、二人の思いがつながっていく。

「それでも僕は夢を見る」水野 敬也/著 鉄拳/画



文響社

「こうなりたい」と夢見た未来は、叶っても
叶わなくてもいつか必ず思い出になります。
ことごとく夢に破れ、つまらない人生を
送ってきた男が人生の最後にわかったこと…。
静かで深い何かを感じる本です。

「星空ロック」那須田 淳/著



あすなろ書房

ひよんなことから一人で3泊4日を
ドイツで過ごすことになった音楽少年レオ。
亡くなった親友ケテルの想いがつまった
レコードと共にベルリンにやってきたレオは、
従妹のまりちゃんや茶髪の美少年ユリアンら
と共に、ひと夏限りの経験をする。

「思い出のマーニー」ジョン・G・ロビンソン/著 松野 正子/訳



岩波書店

家族を亡くしたアンナは、心身の療養のため
海辺の田舎町で過ごすことになる。
そこで出会った不思議な少女マーニーと
生まれて初めての友達になるが…。
後半の思いがけない展開に胸を打たれる、
映画にもなった名作。

「戻りたい過去なんてあらへん」上田正樹/著



K&B/バブリッシャーズ

関西を代表するシンガー・上田正樹。
思い出を振り返ることなく、
過去と決着をつけるべく
今の自分をぶつけ、曲を生み出す。
彼の生き方がヒントを与えてくれるかも。